

シラバス（授業概要）2022年度

開講年度	2022	ナンバリング	13MD0102 (2015) 13MD0102	学期	後期	開講学年	1	授業方法	講義	単位数	2
授業科目名	メディア論1、デジタルアーカイブメディア論										
授業担当者	村上 透										
授業の到達目標及びテーマ	メディアの特性や現在のメディア環境を理解し、デジタルアーカイブ開発における情報源のデジタル化において、メディアの利用（収集・保存・管理・発信）方法を具体的に習得する。また、デジタルアーカイブ構築において、利用者から求められるユニバーサルデザインによるメディア利用環境への対応や、多様なメディアを有機的に結合し、適正化を行い提供する手法や、APIを通じたオープンデータ化による分野横断型統合ポータルサイトへの接続について事例を考察し、実践的な開発力を獲得する。										
授業進行形態	講義										
シラバスの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. デジタルアーカイブの対象（情報源）となるメディアの特性（環境）を理解する。</li> <li>2. メディアの利用（収集・保存・管理・発信）方法を具体的に習得する。</li> <li>3. 利用者から求められるユニバーサルデザインによるメディア提供方法を習得する。</li> <li>4. 多様なメディアを有機的に結合し適正化を行い提供する方法を習得する。</li> <li>5. オープンデータ化による分野横断型統合ポータルサイトへの接続について事例を考察し、実践的な開発力を獲得する。</li> </ol>										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディア利用の意義</li> <li>2. デジタルアーカイブの情報源となるメディアの特性（環境）</li> <li>3. メディア環境調査の実施</li> <li>4. メディア環境調査の分析</li> <li>5. メディアの利用①デジタルアーカイブ概論</li> <li>6. メディアの利用②多様なデジタルアーカイブ</li> <li>7. メディアの利用③データサイエンス入門</li> <li>8. メディアの利用④著作権、肖像権、プライバシー保護等権利処理</li> <li>9. メディアの利用⑤メタデータの理解（検索にかかわる用語の選択）</li> <li>10. メディアの利用⑥メタデータの整理（分類基準作成）</li> <li>11. メディアの利用⑦マーケティング</li> <li>12. メディアの利用⑧プレゼンテーション（基本）</li> <li>13. メディアの利用⑨プレゼンテーション（検索利用）</li> <li>14. メディアの利用⑩環境への対応（ユニバーサルデザインの実現）</li> <li>15. 課題と考察</li> </ol>										
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IPadにて利用可能なPDFデータを学内ネットで提供する。</li> <li>・情報学総合科学部主催「学内向け授業用デジタルアーカイブ社会の発展にむけて2020年8月」<a href="https://www.kantei.co.jp/in/2n/5mg/01he47/djdtlarc0jye_sudainiki/si/pdf/0208_2kxanen_bokuboku_hoebun.pdf">https://www.kantei.co.jp/in/2n/5mg/01he47/djdtlarc0jye_sudainiki/si/pdf/0208_2kxanen_bokuboku_hoebun.pdf</a></li> <li>・知的財産課発刊2020（2020年5月）<a href="https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ste42/kefai/chiyosai/saku/20200527.pdf">https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ste42/kefai/chiyosai/saku/20200527.pdf</a></li> </ul>										
参考書	新版デジタルアーカイブ入門 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究部編 樹村房 2019年										
学生に対する評価及び基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極性（45%）、課題レポート（20%）及び試験（35%）により評価を行う。</li> <li>・メディア環境の理解、デジタルアーカイブの対象、デジタル化、権利処理、プレゼンテーション方法の基本的理解を基準として評価を行う。</li> </ul>										
再試験	有										
実務経験	有										
実務経験内容	国立科学博物館・国立青少年教育振興機構における調査研究、デジタルアーカイブを中心とした情報集積・活用のための研究開発										
実務経験と授業との関係	デジタルアーカイブを中心とした情報集積・活用のための研究開発実績を活用した授業を行う。										
実務学習の具体的な内容	博物館、図書館、大学等研究機関、自治体、企業から提供されているデジタルアーカイブを知識基盤として、実際の学務に活用する。										
学習の内容	参考書の該当箇所を授業進度で関連にまとめ理解する。										
学習時間	1.0時間										
学習の内容	事後ネットでアップする講義資料を授業進度で関連にまとめ理解する。その後、課題に取り組み成果を提出する。										
学習時間	2.0時間										
学習時間	課題解決型学習										
アクティビティ・ラーニングの概要	課題解決型学習										
臨時休業等に伴う遠隔授業の対応について	全ての講義で対応可能										